

# 靴の革新。

ハンズの  
モノ研  
Vol.1

「私は、安い靴を買うほど幸福ではない。」英国紳士の名言だ。いい靴を長く履くことで、結果的に元が取れるという考え方が、実に英国らしい。また、「足元を見る」という言葉があるように、意外と見られているのが靴への愛情。ていねいにお手入れされた靴は相手によい印象を与えられるだろう。人生の相棒でもある靴を美しく磨き上げる時間は楽しいものさあ、靴を磨いて、豊かな人生を歩もう。

## シューレース [shoelace]

靴紐のこと。丸紐や平紐など形の違いもあれば、ロウ引きやガス引きなど、加工の仕方も色々。結び方で、フォーマル感やカジュアル感も演出できる。

## アイレット [eyelet]

靴紐を通す穴。鳩の目に似ていることから、「ハトメ」とも呼ばれ、穴の敷に合わせて「2ハトメ」「4ハトメ」などと数える。ちなみに、アイレットを載せる革の部分を、「羽根」と呼ぶ。

## トゥ [toe]

つま先。または靴の甲先。様々な種類があり、靴の個性が出る。

## タン [tongue]

舌革、舌よけ革。ベロとも呼ばれている。靴を締めた際に足に食い込むのを防ぐ役割もある。

## ハネ [lacingstay]

紐靴において、左右から覆う部分。紐を結んだ時に間隔が1cmほど空いているのが、ほどよいフィット感だとされている。

## アッパー [upper]

靴の甲の部分(底部を除く上部のすべて)を表す。足の動きに合わせてシワができてしまう部分でもあり、きちんとシューツリーを使ってシワを伸ばす事が重要。

## アウトソール [outsole]

靴底のこと。レザーソール(革底)とラバーソール(ゴム底)に分類される。小石を踏んだ時に感覚がはっきり感じられたなら、ソールを交換する時期。

## コバ [edge]

靴の内側からつま先を経て、外側に至るふち周り(エッジ)。「水端」が語源とされている。積み重ねた革の切断面が、木の切れ端に見えることから。

## How to Shoe Care

長持ちする靴とのつきあい方



新商品の  
アイ豆です。

## 1 ホコリをとる

まずはシューツリーを入れて、全体的にブラシをかける。コバの部分もていねいに。柔らかい馬毛ブラシが万能だが、革が厚い靴やスニーカーには硬めの豚毛ブラシ。スエードの毛並を立てる時には真ちゅうブラシが便利。靴に合わせてブラシを選ぶのが、シューケア上級者への第一歩。



## 2 ヨゴレをとる

忘れがちなのが、以前のお手入れで残ったワックスやクリームを落とす作業。そのままにしておくと、表面にヒビが入ってしまう。ラバーやローションを使って一度「すっぴん」の状態にするのが、長持ちさせる秘訣。



お肌のケアと同じ。まずは化粧落としから。

## 3 栄養を与える

クリームで革を元気にする。ポイントは、薄く均一に伸ばしていくこと。細かいところはブラシを使う。布で余分なクリームを拭き取り、仕上げは乾拭きで、ピカピカになるまで。



## 4 保管する

アッパーのシワをとり、湿りずれを防ぐためにも、シューツリーを入れて涼しい場所に保管。防水スプレーには汚れ防止の効果もあるため、雨の日に限らず、買ったばかりの靴には必ずかける。



## 5 こだわりを満たす

ここで紹介したのはシューケアのほんの一部。靴紐やソールのケアなど、自分ならではのこだわりで靴への愛着は深まり、人生の相棒となる。いい靴を買ったら、東急ハンズへ。

